



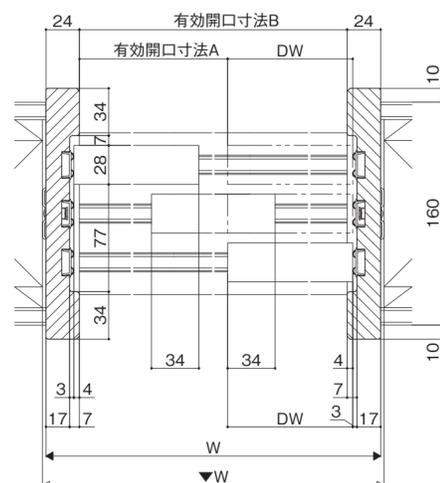
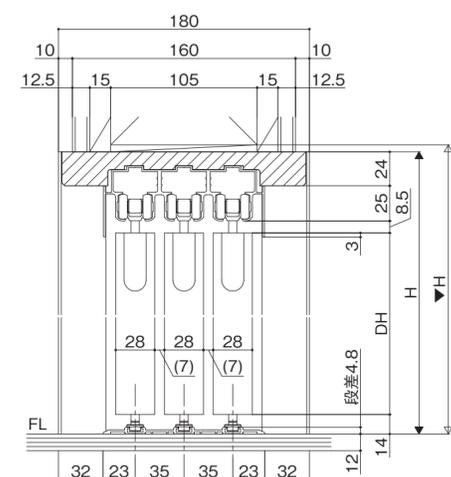
リビング建材 ウッディーライン 可動間仕切り 引戸上吊方式

取付け説明書

■可動間仕切り引戸上吊方式 引違い戸3枚建ユニット ノンケーシング

●縦断面図

●横断面図



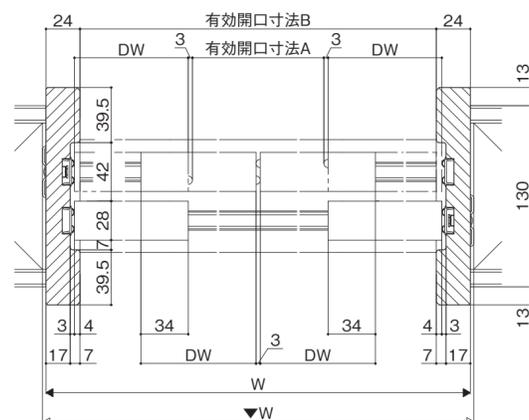
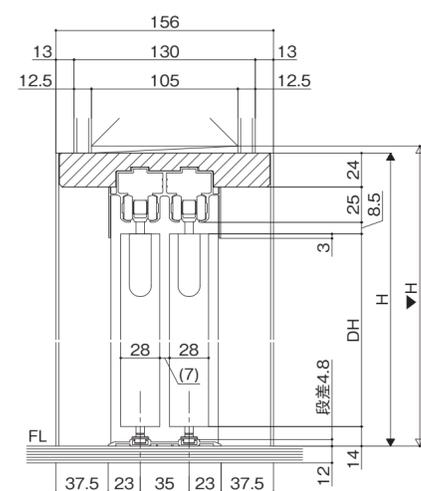
基本寸法 (mm)	W呼称	W24
	W	2429
	H呼称	H23
	H	2306

W呼称(枠外寸法)	A寸法	B寸法
W24(2429)	1566	2381

■可動間仕切り引戸上吊方式 引違い戸4枚建ユニット ノンケーシング

●縦断面図

●横断面図



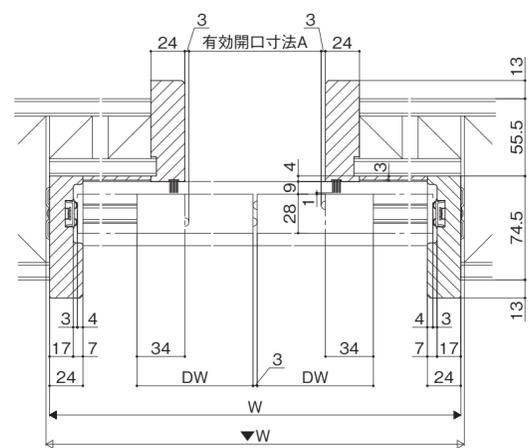
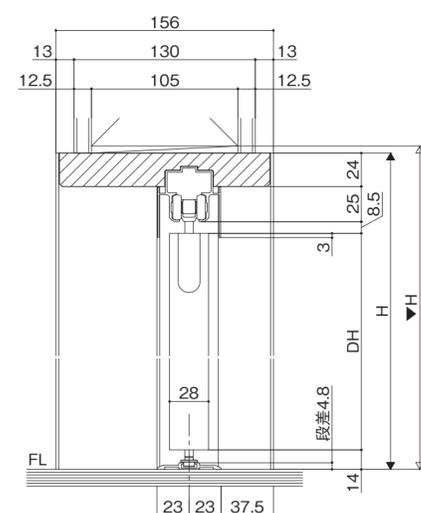
基本寸法 (mm)	W呼称	W32
	W	3251
	H呼称	H23
	H	2306

W呼称(枠外寸法)	A寸法	B寸法
W24(2429)	1567	3203

■可動間仕切り引戸上吊方式 引分け戸ユニット ノンケーシング

●縦断面図

●横断面図



基本寸法 (mm)	W呼称	W32
	W	3251
	H呼称	H23
	H	2306

W呼称(枠外寸法)	A寸法
W24(2429)	1567

●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意…取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害、軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

●吊車の本体への取付けは、吊車が本体木口面と同一面になるまで押し込んでください。押し込み後、引張って抜けないことを確認してください。押し込みが足りないと本体が脱落するおそれがあります。

■取付け上のおお願い

- 本製品は、ノンケーシングタイプNC156 (片引戸・引違い戸2枚建・引違い戸3枚建・引違い戸4枚建・引分け戸) は壁厚 (116~130mm)、NC171 (片引戸・引違い戸2枚建・引違い戸3枚建・引違い戸4枚建・引分け戸) は壁厚 (131~145mm)、NC180 (片引戸・片引戸2枚建・引違い戸2枚建・引違い戸3枚建・引違い戸4枚建・引分け戸) は壁厚 (146~160mm)、NC210 (片引戸3枚建) は壁厚 (170~190mm) に取付けられます。ケーシングタイプ薄壁用 (片引戸・引違い戸2枚建・引違い戸4枚建・引分け戸) は壁厚 (111~141mm)、厚壁用 (片引戸・引違い戸2枚建・引違い戸4枚建・引分け戸) は壁厚 (142~182mm)、片引戸2枚建・引違い戸3枚建は壁厚 (146~188mm)、片引戸3枚建は壁厚 (186~216mm) に取付けられます。
- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 本製品の組立て・施工時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。(本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。)
- 枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 造作材・建具枠を取付けるときは、必ず接着剤 (現場手配) を併用してください。かい木を使用する場合、かい木の両面に接着剤 (現場手配) を塗布してください。
- 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」又はノンホルムタイプを使用してください。
- 造作材・建具枠の下地材には、必ず乾燥材 (含水率20%以下) を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから施工してください。
- 枠の組立て後、ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損の原因になります。
- 建具枠と柱・間柱・まぐさの間には、必ずすき間をつくって納めてください。
- 縦枠と柱・間柱とのすき間は、枠固定金具を調整して柱とあてて、内装ボードを必ず縦枠に突きあててください。突きあてができない場合は、かい木を入れてください。
- 上枠とまぐさのすき間は必ずかい木を入れてください。
- かい木には合板などの乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル (床面) に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に必ず防水処理をしてください。
- 本製品は上吊方式を採用しています。梁 (まぐさ) は、強度を増すため、断面寸法 105×180 (mm) 以上を使用してください。上枠の垂下がりの原因になります。梁 (まぐさ) が軽量鉄骨の場合は、ねじ保持力が弱いので直接固定しないでください。必ず枠と軽量鉄骨の間に木枠を入れて取付けてください。
- 本体にガムテープ・クラフトテープなどの粘着力の強いものを直接張らないでください。養生の際は、マスキングテープなど粘着力の弱いものを使用してください。
- 枠固定金具の調整範囲 (調整幅7mm) をこえる開口部については、必ず柱・間柱・まぐさを入れ、調整範囲を満たすようにしてください。
- Wソフトモーション部品には潤滑剤などを塗布しないでください。作動不具合の原因になります。

■部品・部材の明細

※枠はノックダウン、本体は完成品です。引手なしデザイン本体には引手はありません。

<p>引違い戸2枚建・引違い戸3枚建・引違い戸4枚建用本体</p> <p>1枚梱包×2/引違い戸2枚建用 1枚梱包×3/引違い戸3枚建用 1枚梱包×4/引違い戸4枚建用</p> <p>部品セット</p> <p>※部品セットは、本体1枚ごとに同梱しています。</p>	<p>片引戸・片引戸2枚建・片引戸3枚建用本体</p> <p>1枚梱包×1/片引戸用 1枚梱包×2/片引戸2枚建用 1枚梱包×3/片引戸3枚建用</p> <p>部品セット</p> <p>※部品セットは、本体1枚ごとに同梱しています。</p>	<p>引分け戸用本体</p> <p>1枚梱包×2/引分け戸用</p> <p>部品セット</p> <p>※部品セットは、本体1枚ごとに同梱しています。</p>
<p>引違い戸2枚建・引違い戸3枚建・引違い戸4枚建用枠</p> <p>召合せパッキン(2本) (引違い戸4枚建のみ) ※召合せパッキンは、本体取付けになります。なくさないようにしてください。</p> <p>戸当り 縦枠(2本) 鴨居 フラット下レール</p> <p>部品セット</p> <p>取付け説明書</p>	<p>片引戸・片引戸2枚建・片引戸3枚建用枠</p> <p>目かくし(片引戸3枚建のみ) 縦枠 小縦枠 中縦枠 戸当り 鴨居 幅木 フラット下レール</p> <p>部品セット</p> <p>取付け説明書</p>	<p>引分け戸用枠</p> <p>召合せパッキン(2本) ※召合せパッキンは、本体取付けになります。なくさないようにしてください。</p> <p>戸当り 小縦枠(2本) 中縦枠(2本) 鴨居 幅木2本 フラット下レール</p> <p>部品セット</p> <p>取付け説明書</p>
<p>ケーシングセット(ケーシング付タイプのみ)</p>	<p>ケーシングセット(ケーシング付タイプのみ)</p>	<p>ケーシングセット(ケーシング付タイプのみ)</p>

■枠セット明細

部材名称	片引戸	片引戸2枚建	片引戸3枚建	引違い戸2枚建	引違い戸3枚建	引違い戸4枚建	引分け戸
鴨居	1	1	1	1	1	1	1
縦枠	1	1	1	2	2	2	-
中縦枠	1	1	1	-	-	-	2
小縦枠	1	1	1	-	-	-	2
幅木	1	1	1	-	-	-	2
フラット下レール	1	1	1	1	1	1	1
戸当り	2	3	4	4	6	4	2
目かくし	-	-	1	-	-	-	-
召合せパッキン	-	-	-	-	-	2	2
片引戸用	1	-	-	-	-	-	-
部品セット	片引戸2枚建用・引違い戸2枚建・引分け戸用	1	-	1	-	-	1
	片引戸3枚建用・引違い戸3枚建用	-	1	-	1	-	-
	引違い戸4枚建用	-	-	-	1	-	-

■部品セット明細

□本体部品セット

部材名称	入数
ガイドピボット	2

□片引き部品セット

部材名称	入数
組立て用皿小ねじM4×50	4
鴨居取付け用トラスタッピンねじφ4×50	※10
縦枠取付け用ナベタッピンねじφ4×40	6
下レール取付け用皿タッピンねじφ4×18	12
吊車A	2
吊車B	-

□片引き2枚建部品セット

部材名称	入数
組立て用皿小ねじM4×50	4
鴨居取付け用トラスタッピンねじφ4×50	※12
縦枠取付け用ナベタッピンねじφ4×40	6
下レール取付け用皿タッピンねじφ4×18	16
吊車A	2
吊車B	2

□片引き3枚建部品セット

部材名称	入数
組立て用皿小ねじM4×50	4
鴨居取付け用トラスタッピンねじφ4×50	※18
縦枠取付け用ナベタッピンねじφ4×40	6
下レール取付け用皿タッピンねじφ4×18	22
吊車A	2
吊車B	4

□引違い部品セット

部材名称	入数
組立て用皿小ねじM4×50	4
鴨居取付け用トラスタッピンねじφ4×50	※12
縦枠取付け用ナベタッピンねじφ4×40	6
下レール取付け用皿タッピンねじφ4×18	12
吊車A	4
吊車B	-

□引違い3枚建部品セット

部材名称	入数
組立て用皿小ねじM4×50	4
鴨居取付け用トラスタッピンねじφ4×50	※15
縦枠取付け用ナベタッピンねじφ4×40	6
下レール取付け用皿タッピンねじφ4×18	16
吊車A	-
吊車B	6

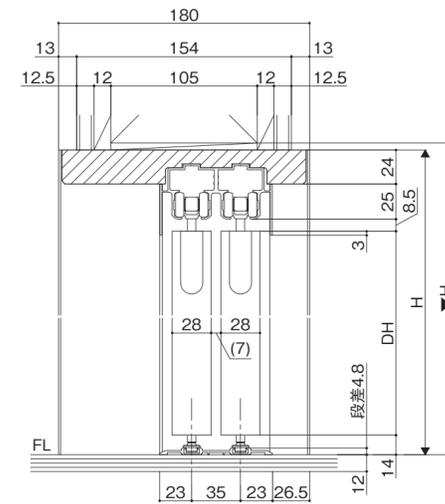
□引違い4枚建部品セット

部材名称	入数
組立て用皿小ねじM4×50	4
鴨居取付け用トラスタッピンねじφ4×50	※14
縦枠取付け用ナベタッピンねじφ4×40	6
下レール取付け用皿タッピンねじφ4×18	22
吊車A	8
吊車B	-

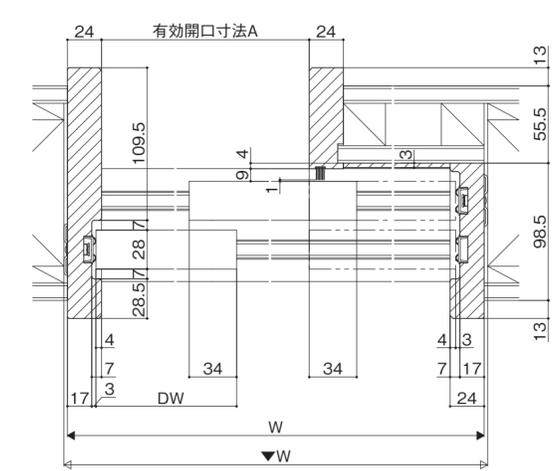
※予備用4本含む

■可動間仕切り引戸上吊方式 片引戸2枚建ユニット ノンケーシング

●縦断面図



●横断面図

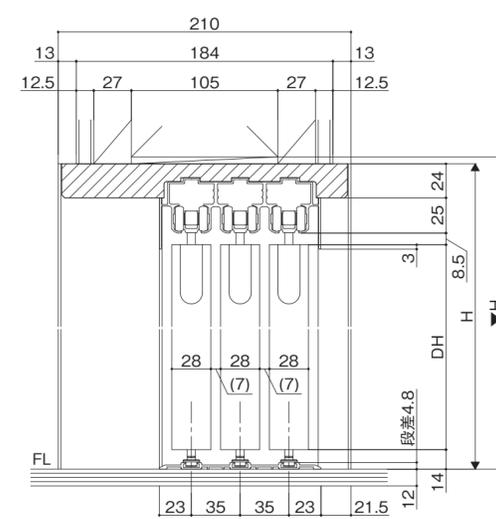


基本寸法 (mm)	W呼称	W24
	W	2429
	H呼称	H23
	H	2306

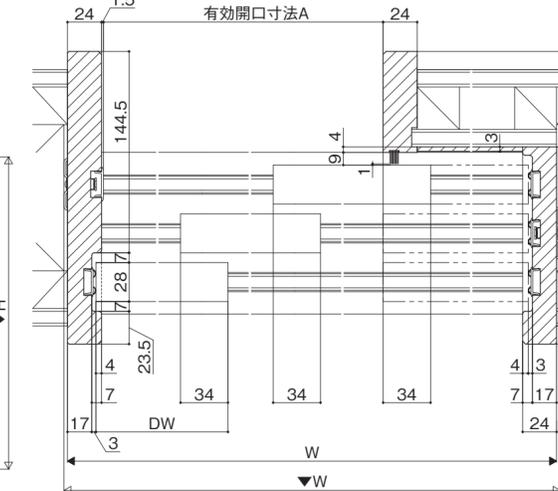
W呼称 (枠外寸法)	A寸法
W24(2429)	1566

■可動間仕切り引戸上吊方式 片引戸3枚建ユニット ノンケーシング

●縦断面図



●横断面図

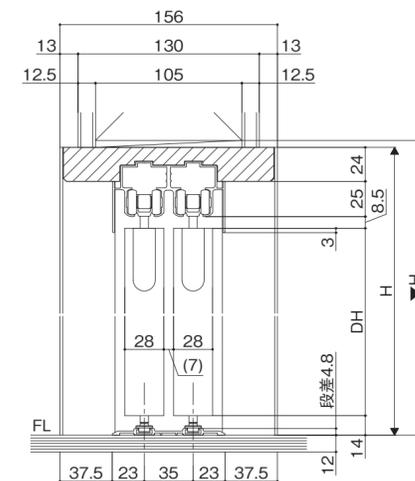


基本寸法 (mm)	W呼称	W32
	W	3214
	H呼称	H23
	H	2306

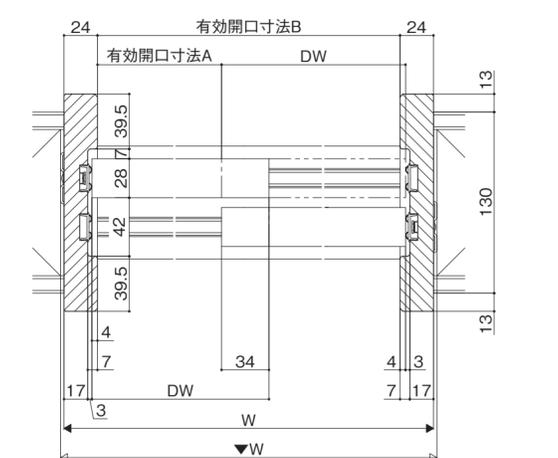
W呼称 (枠外寸法)	A寸法
W32(3214)	2349.5

■可動間仕切り引戸上吊方式 引違い戸2枚建ユニット ノンケーシング

●縦断面図



●横断面図



基本寸法 (mm)	W呼称	W16
	W	1644
	H呼称	H20
	H	2023

W呼称 (枠外寸法)	A寸法	B寸法
W16(1644)	781	1596

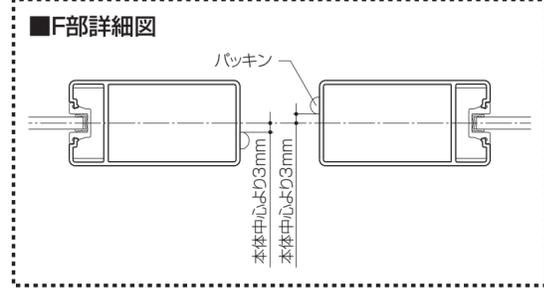
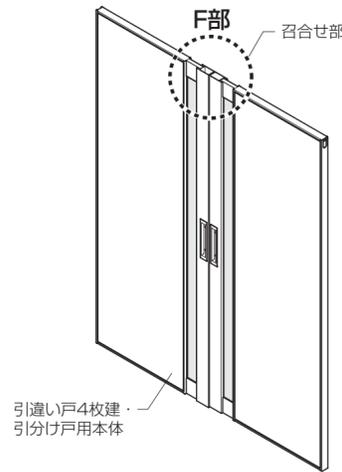
■召合せパッキンの取付け

- 本体の吊込み・建付け調整を行った後、引違い戸4枚建・引分け戸用本体の召合せ部に、本体と同梱のパッキンを取付けます。
- パッキン裏面のシートをはがし、5kg程度で押し張付けます。パッキンは、長めのものを同梱していますので、現場でカットしてください。

お願い

※パッキンは、必ず本体を吊込んで、建付け調整を行ってから張付けてください。

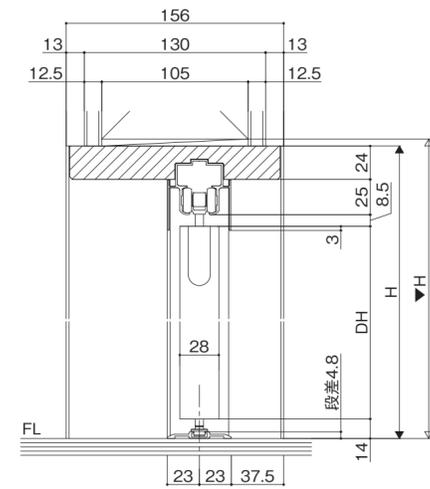
※パッキンは、張付け面のホコリ・汚れ・油分などを取除いてから張付けてください。



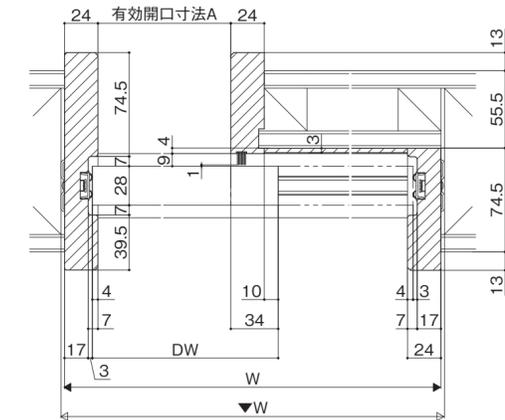
■参考納まり図

■可動間仕切り引戸上吊方式 片引戸ユニット ノンケーシング

●縦断面図



●横断面図



基本寸法 (mm)	W呼称	W16	
	W	1644	
	H呼称	H20	H23
	H	2023	2306

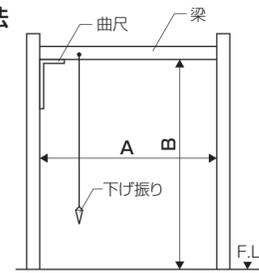
W呼称(枠外寸法)	A寸法
W16(1644)	781

■開口部の作り方

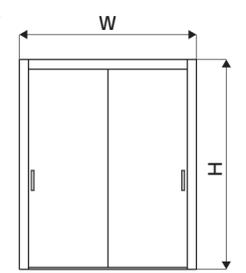
■開口部寸法の出し方

- 開口A寸法=製品寸法(W)+5mm
- 開口B寸法=製品寸法(H)+5mm
- ※開口部の水平・垂直を正しく出してください。
- ※本製品は、上吊方式を採用しています。
- 梁(まぐさ)は、強度を要するため、断面寸法105×180(mm)以上を使用してください。

■開口寸法

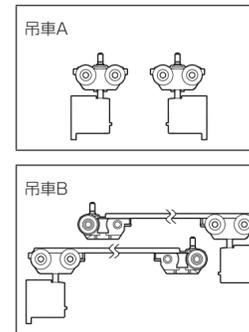


■製品寸法



■取付け順序

1 枠の組立て

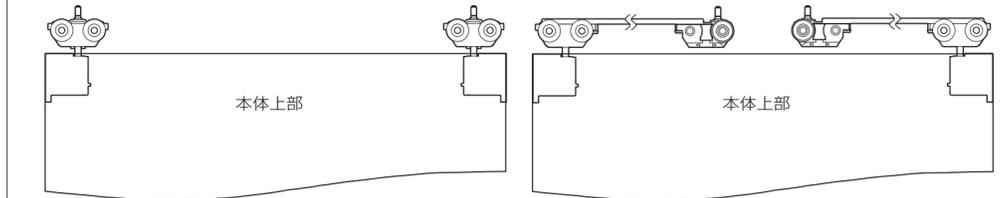


■取付け詳細

1 枠の組立て

1 吊車の取付け

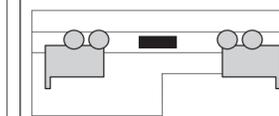
- 吊車AはA同士、BはB同士、それぞれ2個セットで各本体に使用します。使い分けを間違えると、Wソフトモーションがうまく作動しません。
- ※なお、Wソフトモーション部品に左右の向きはありません。



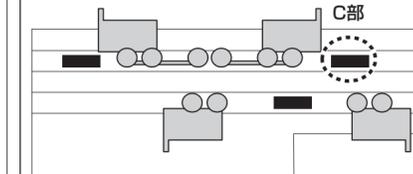
■吊車の使い分け図

※説明の都合上、一部吊車のイラストを上下反転させています。

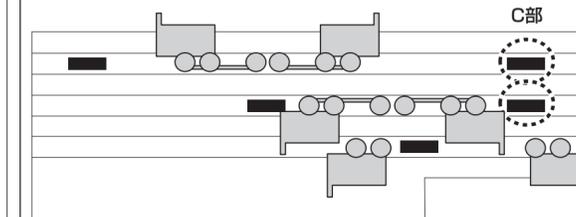
・片引戸



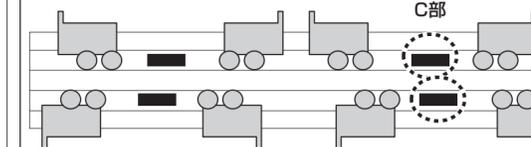
・片引戸2枚建



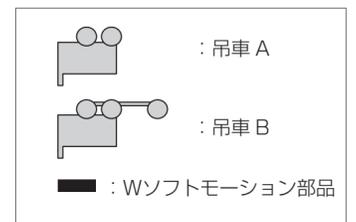
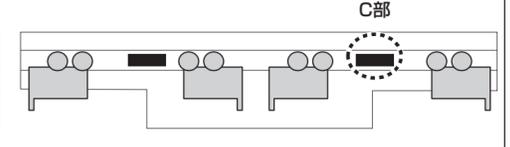
・片引戸3枚建



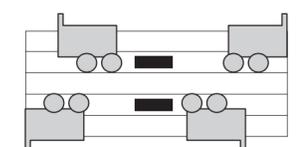
・引違い戸4枚建



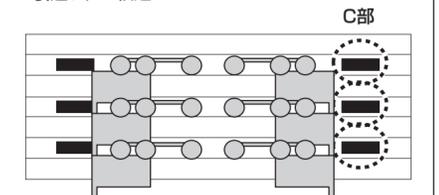
・引分け戸



・引違い戸2枚建



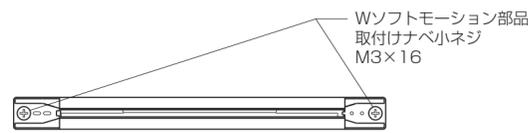
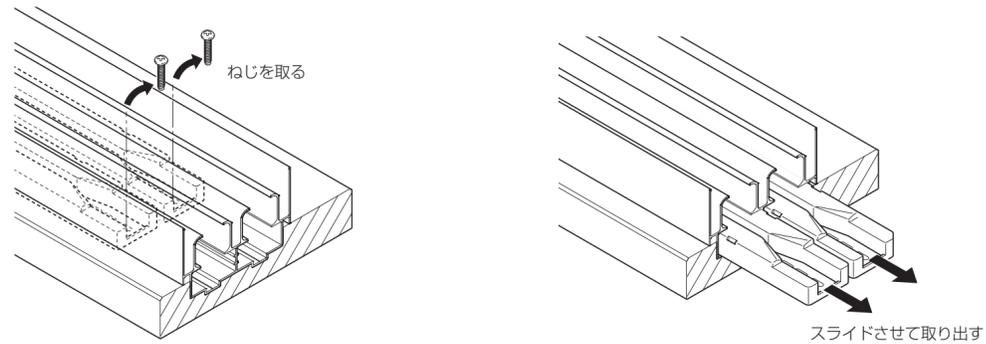
・引違い戸3枚建



- 片引戸2枚建、片引戸3枚建、引違い3枚建、引違い4枚建、引分け戸は吊車挿入前にC部のWソフトモーション部品を取外してください。(取外し手順は 4/14 参照)

■Wソフトモーション部品の取外し

- ①Wソフトモーション部品の取付けねじ2本を外し、横にスライドさせてレール端部より取出してください。
 ※引違い3枚建、引違い4枚建については、ロットNo. ラベル側のWソフトモーション部品を取外してください。
 ※C部以外のWソフトモーション部品を外す場合、レールと鴨居を固定しているねじが邪魔になる場合があります。その場合は、固定ねじを外してから、Wソフトモーション部品を取外してください。



- ②Wソフトモーション部品を外した側から、吊車の使いわけ図の向きで吊車を挿入してください。

お願い
 ※吊車には左右があります。必ず吊車の使いわけ図の向きで挿入してください。

- ③外したWソフトモーション部品を元の位置に再度取付けてください。
 ※Wソフトモーション部品に左右はありません。
 ④組立て中に吊車が動かないように、マスキングテープなど（現場手配）で仮固定してください。

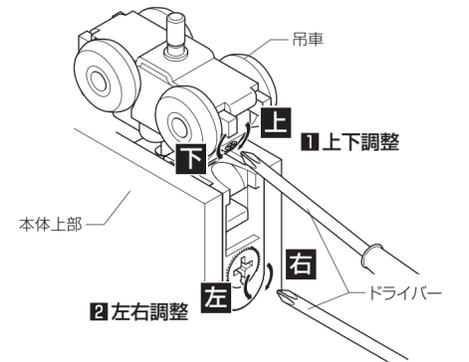
■本体の調整

1 上下調整(調整幅+4mm、-1mm)

- プラスドライバーで、吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。
 ※床面と本体下部とのチリ寸法は、8mmが標準です。
 ※本体を下げすぎるとガイドピボット先端部と本体が当たりますので、下げすぎないでください。

2 前後調整(±2mm)

- 前後調整は、プラスドライバーで吊車下部の調整ねじを右に回すと本体が右へ動き、左に回すと本体が左に動きます。

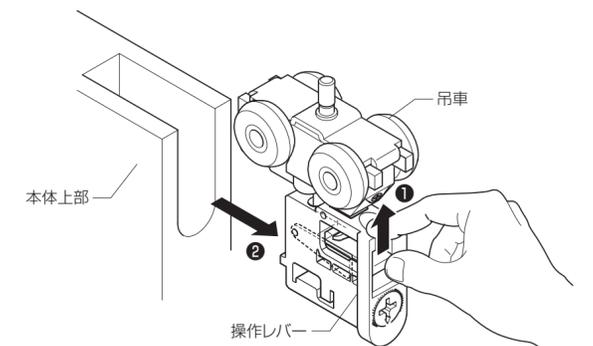


■Wソフトモーション機構 異常時の対処方法

現象	チェックポイント	対処方法
<p>閉まりきらない</p> <p>すき間</p> <p>STOP!</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●本体とモヘアが接触している ※片引き・引分けのみ 	<p>吊車の左右調整ねじで本体にモヘアが触れて閉りが重くならないように調整してください。</p> <p>■吊車の調整 左右調整ねじを左に回すと本体が右に動き、右に回すと左に動きます。(調整幅左右各2mm)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ●枠の取付け精度が許容範囲をオーバーしている ※「取付け精度の許容範囲」の欄参照 	許容範囲内となるように再施工してください。
	<ul style="list-style-type: none"> ●Wソフトモーション部品の外観に潤滑剤が塗布された形跡がある 	Wソフトモーション部品の交換が必要です。
<p>ブレーキが効かない</p> <p>※ブレーキの効きには限界があります。重量の重たい本体を速く閉めるとブレーキ感を弱く感じたり、逆に重量の軽い本体・Wサイズの小さい本体を速く閉めるとブレーキ感を強く感じたりする場合があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●Wソフトモーション部品の外観に潤滑剤が塗布された形跡がある 	Wソフトモーション部品の交換が必要です。

4 本体の取外し方法

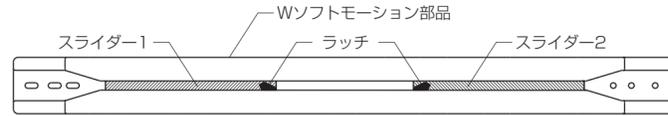
- 本体を手で支えてから吊車の操作レバーを指でつまみ、上に押し上げます。次に吊車を本体の内部ケースより引抜き、取外します。



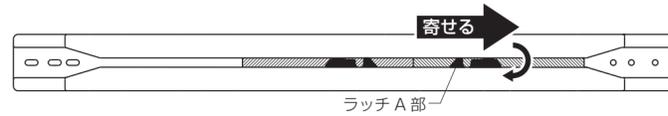
■Wソフトモーション機構の復帰方法

●本体を吊込んでもWソフトモーション機構が作動しない場合は、Wソフトモーション部品を確認してください。Wソフトモーション部品の正常な状態は下図の通りです。下図の状態ではない場合、以下の手順で正常な状態に戻してください。

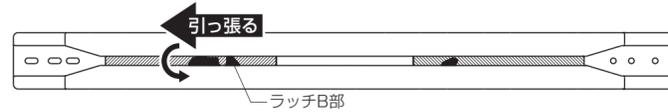
※正常な状態はスライダー1とスライダー2が離れた状態です。



①スライダーを片側に寄せ、寄せた側と逆側のラッチA部にドライバーなどを挿入し、片側のラッチを回転させます。



②回転させたラッチと逆側のラッチ（ラッチB部）にドライバーを挿入し、引っ張ります。引っ張ると端部でラッチが回転し正常な状態に戻ります。



お願い

※片引戸2枚建・片引戸3枚建・引違い戸3枚建 本体には片側引手本体とクロス引手本体があります。引手方向（勝手）を確認してから枠に吊込んでください。

※引手なしデザイン本体には勝手がありません。ただし、ガラスには表裏があるため、本体が複数ある場合はブランドラベル面を同じ側にしてください。

■片側引手本体



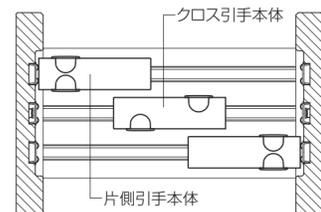
※戸先側裏表に付きます。

■クロス引手本体

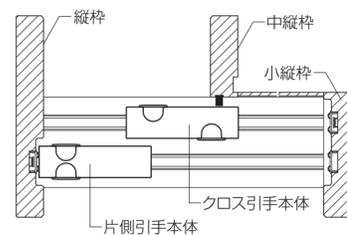


※表裏に1つずつ交互に付きます。

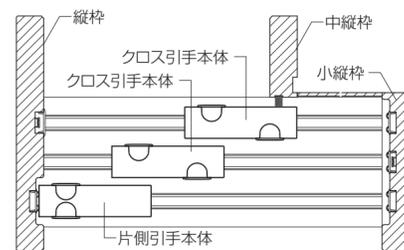
■引違い戸3枚建(概略参考図)



■片引戸2枚建(概略参考図)



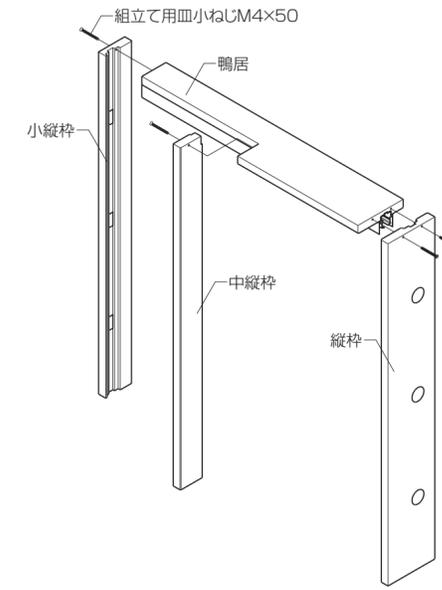
■片引戸3枚建(概略参考図)



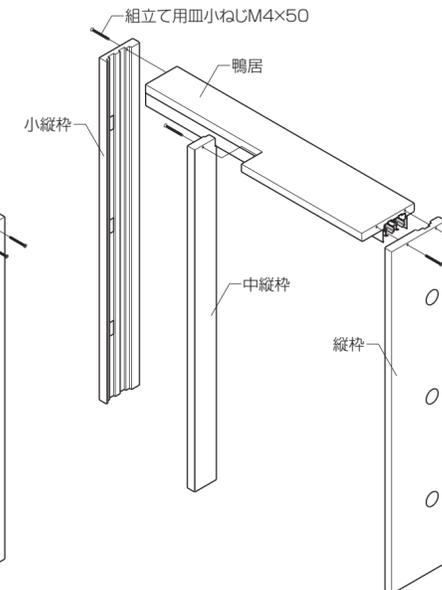
2 縦枠の取付け

●下図のように、各部材を組合せ、同梱のねじ（皿小ねじM4×50）で固定します。

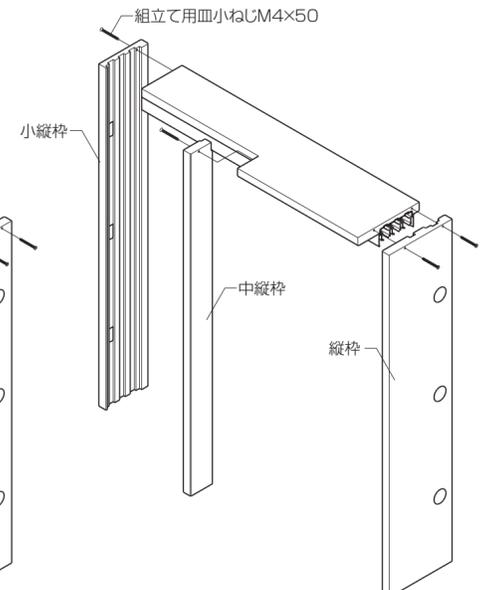
■片引戸



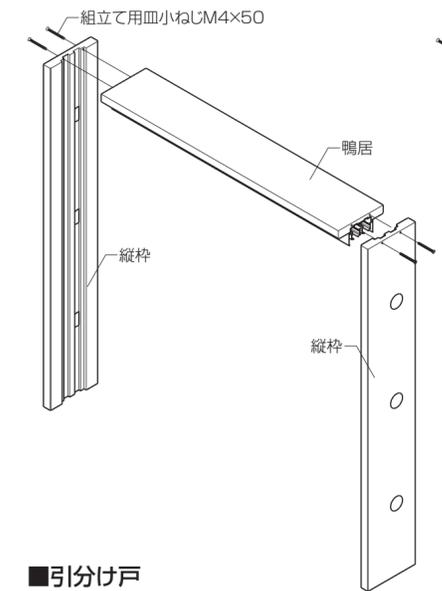
■片引戸2枚建



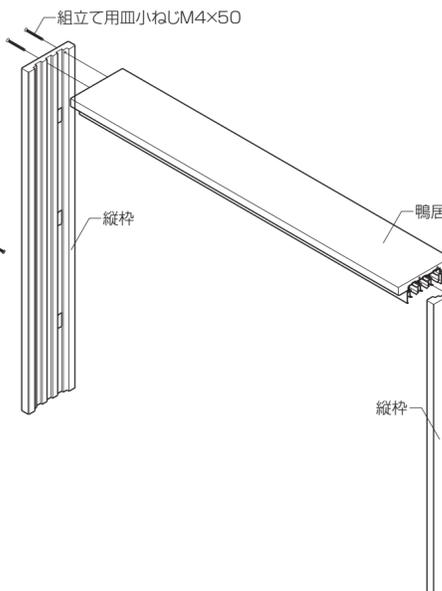
■片引戸3枚建



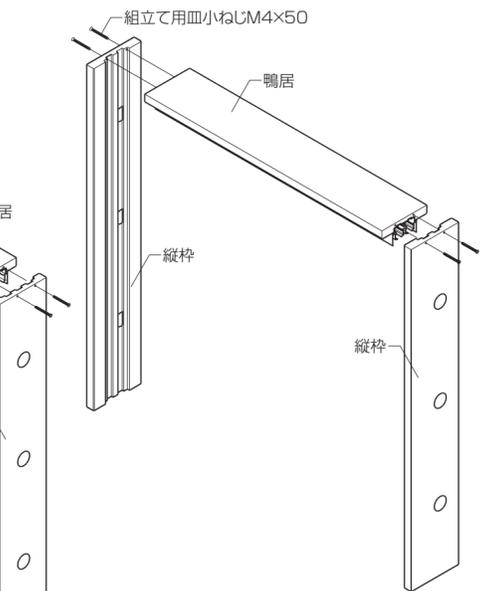
■引違い戸2枚建



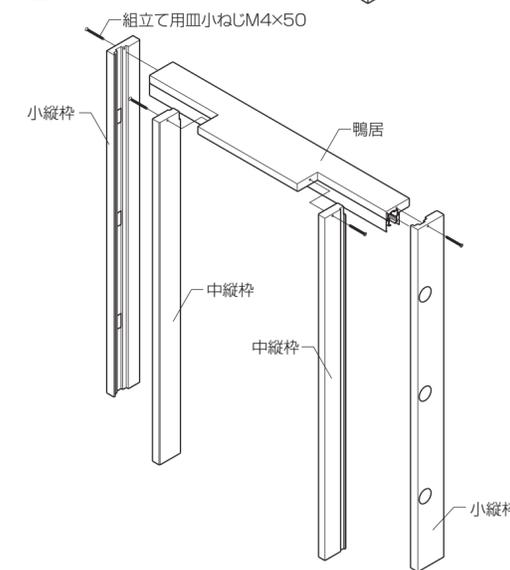
■引違い戸3枚建



■引違い戸4枚建

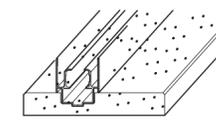
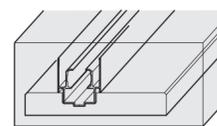


■引分け戸

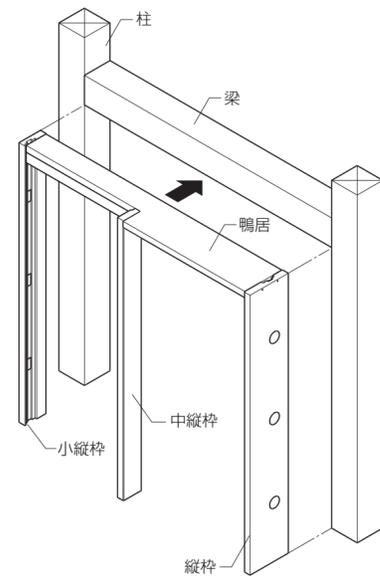


お願い

※枠組立て前に鴨居のレールに吊車を挿入してください。吊車の入れ方を間違えると本体の吊込みおよび、建付け調整ができません。
※枠は取付け前に開梱した状態で現場に置かないようにしてください。現場の粉塵がWソフトモーション部品に混入し、作動不具合の原因となります。



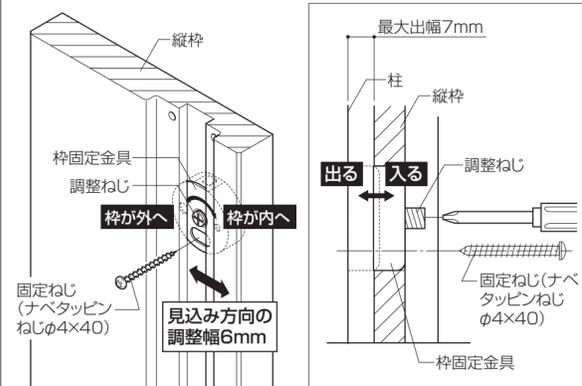
2 枠の取付け



2 枠の取付け

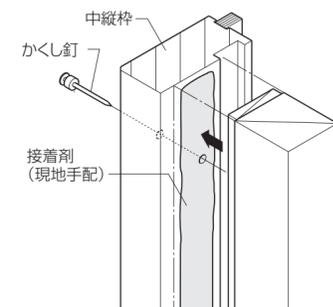
- ①縦枠に取付けられている枠固定金具（縦枠に3個取付け）の調整ねじを時計回りに回し、金具を均等に出して下さい。
- ②枠の垂直を確認して下さい。
- ③固定ねじ（ナベタッピンねじφ4×40）を枠固定金具の長穴中央部分より締付けてください。
- ④枠の奥行き方向のたおれを確認して下さい。たおれている場合は固定ねじをゆるめ、枠を動かします。（奥行き方向の調整幅は6mmです）調整後ねじを固定して下さい。

■縦枠・小縦枠



■中縦枠

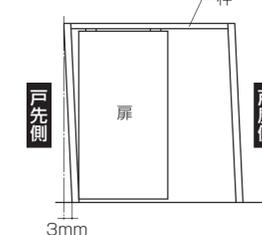
※裏面に接着剤（現地手配）を塗布し、専用のかくし釘で固定します。



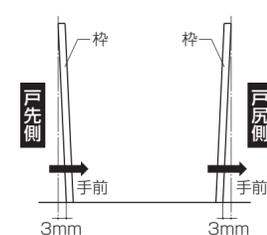
■取付け精度の許容範囲

※横方向の倒れ・奥行き方向のねじれ・枠のタイコ・ツツミが3mmをこえる場合は、3mm以内になるように取付けを修正して下さい。（引戸が吊込めない・Wソフトモーション機構の作動不具合の原因となります。）

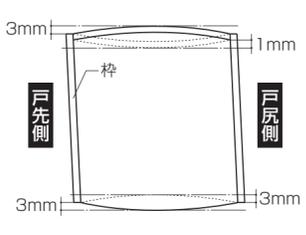
●横方向の倒れ



●奥行き方向のねじれ

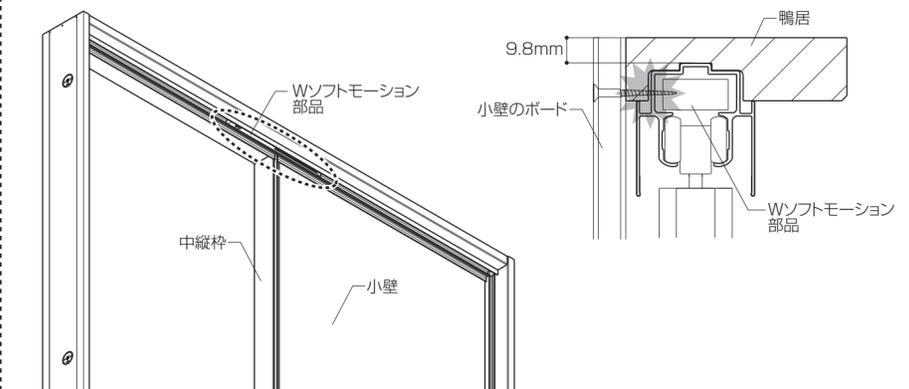


●枠のタイコ・ツツミ



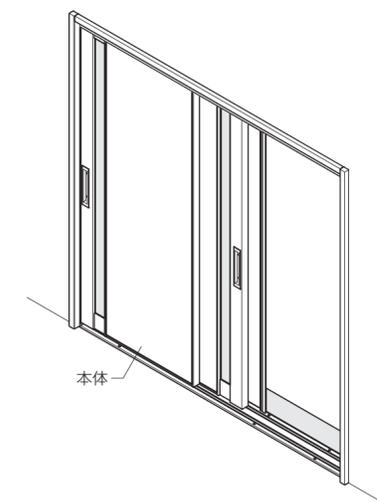
●お願い

※片引きの建具引込み部の小壁は、枠を開口部に取付けてから施工して下さい。小壁のボードを取付ける際、取付ビスが鴨居と鴨居レールを貫通しないように注意して下さい。中縦枠をまたぐ位置にWソフトモーション部品があるため、部品が破損し、作動不具合の原因となります。



- ※枠固定金具の調整には電動ドライバーを使用しないでください。
- ※必ず内装ボードは縦枠に突きあてて施工して下さい。突きあてができない場合は必ずかき木を入れてください。
- ※鴨居の躯体固定ねじを締めすぎると、本体の動きが悪くなる場合があります。本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。

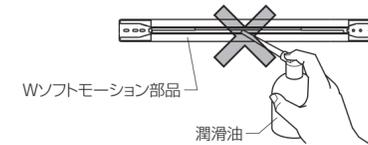
6 本体の吊込み



6 本体の吊込み

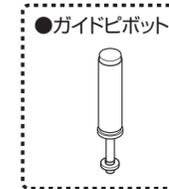
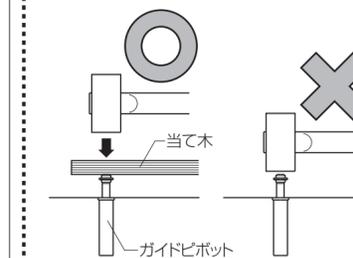
※本体の吊込み前に以下の作業を行ってください。

- お願い
- ※Wソフトモーション部品に潤滑油などを塗布しないでください。作動不良の原因になります。

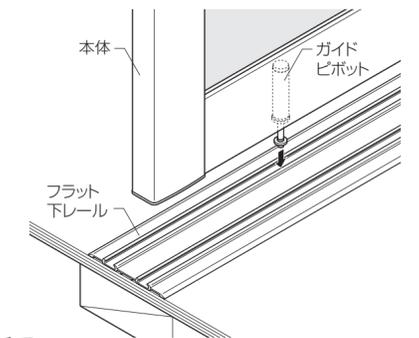
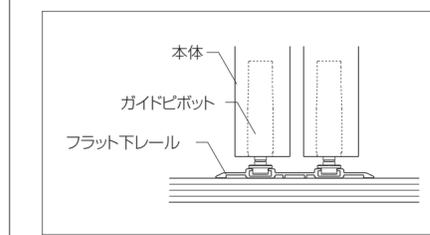


- ①本体下端の加工穴にガイドピボットを圧入します。

- お願い
- ※ガイドピボットを圧入する際は、樹脂部に当て木を使用して下さい。



- ②ガイドピボットをフラット下レールへ落とし込みます。



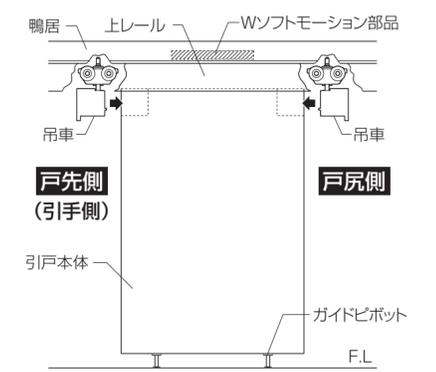
- ③片側ずつ吊車を本体に水平に押込むと、ワンタッチで取付けられます。

※吊車の凸部を本体上部溝の凹部に合わせて差込みます。

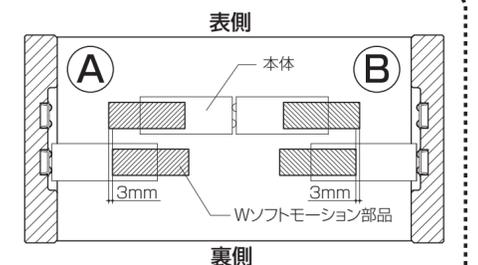
- お願い
- ※Wソフトモーション部品と吊車が干渉しない位置で吊込みを行ってください。

▲注意

- 吊車の本体への取付けは、吊車が本体木口面と同一面になるまで押込んでください。押込み後、引張って抜けないことを確認してください。押込みが足りないと本体が脱落するおそれがあります。



- お願い
- ※引違い4枚建ては鴨居にユニットに表裏があるため、鴨居にA◎スタンプが押印してあります。鴨居の向きと本体の納まりは必ず右図のようにしてください。正しく納めないと召し合わせの位置がずれたり、Wソフトモーション機構が正しく動きません。



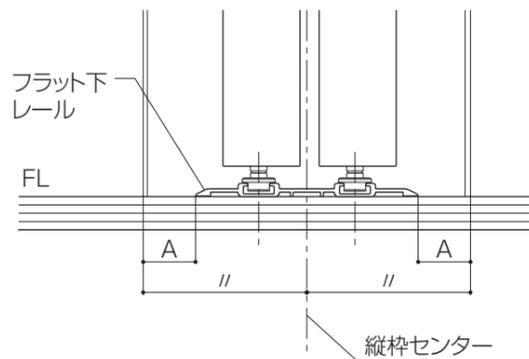
⑤ 枠の垂直方向を確認してから開口寸法（W方向）に問題がないか、フラット下レールを仮置きして確認してください。

開口寸法が大きい場合は、調整ねじを時計回りに回し、小さい場合は、反時計回りに回して枠を調整してください。左右方向の調整範囲は片側で7mmです。

※フラットレールの位置出しは下図を参考に仮置きしてください。

■引違い戸2枚建・引違い戸3枚建・引違い戸4枚建

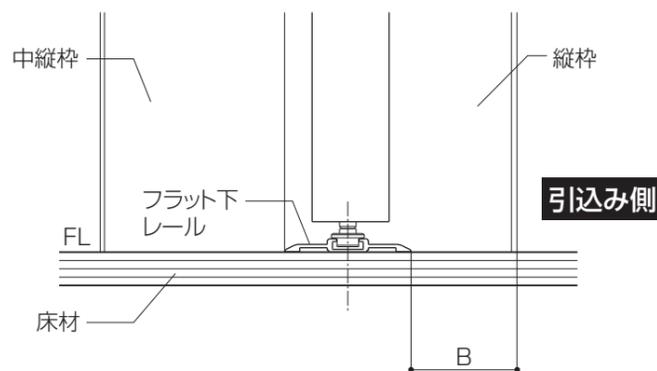
●フラット下レールは建具芯を中心に仮置きしてください。



枠種類	A
NC156(引違い戸2枚建・4枚建)	37.5
NC171(引違い戸2枚建・4枚建)	45
NC180(引違い戸2枚建・4枚建)	49.5
NC156(引違い戸3枚建)	20
NC171(引違い戸3枚建)	27.5
NC180(引違い戸3枚建)	32
薄壁(引違い戸2枚建・4枚建)	17
厚壁(引違い戸2枚建・4枚建)	30.5
C付150(引違い戸3枚建)	17

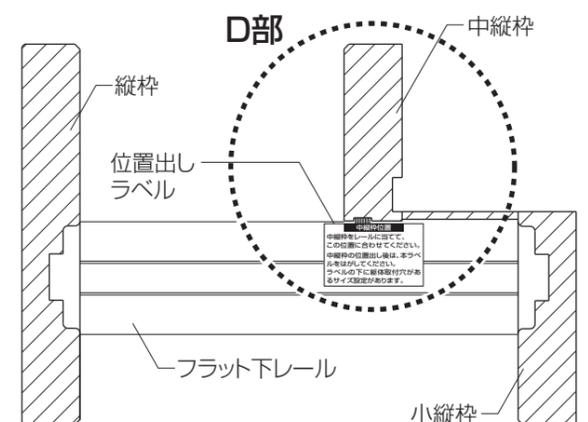
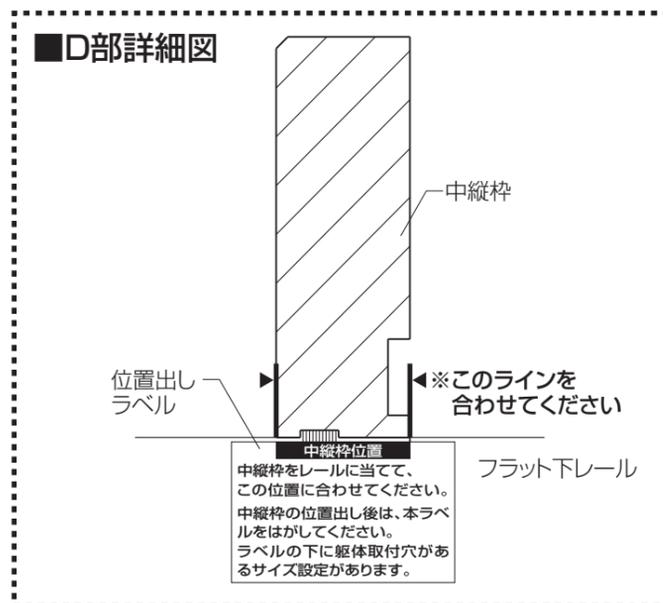
■片引戸

●フラット下レールは引込み側にB寸法あけて仮置きしてください。



枠種類	B
NC156(片引戸・引分け戸)	37.5
NC171(片引戸・引分け戸)	52.5
NC180(片引戸・引分け戸)	61.5
NC180(片引戸2枚建)	26.5
NC210(片引戸3枚建)	21.5
薄壁(片引戸・引分け戸)	17
厚壁(片引戸・引分け戸)	44
C付150(片引戸2枚建)	17
C付190(片引戸3枚建)	22

⑥ 片引戸・片引戸2枚建・片引戸3枚建・引分け戸の場合、中縦枠の位置出しは、フラット下レールの位置出しラベルに合わせて取付けてください。

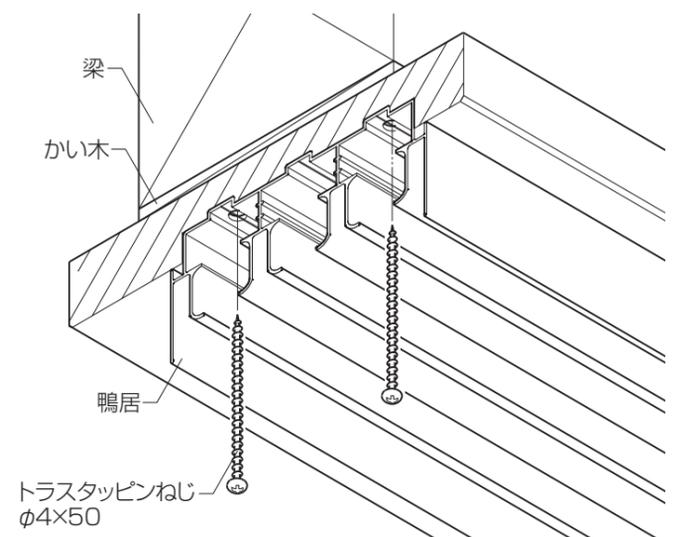


⑦ 再度、枠の垂直を確認してください。

⑧ 鴨居はかい木を入れて、水平になるように調整したあと、上レールの穴からトラスタッピンねじφ4×50で躯体に固定してください。

※縦枠の固定個所を増やしたい場合は、予備の鴨居取付け用ねじ（トラスタッピンねじφ4×50）で固定してください。

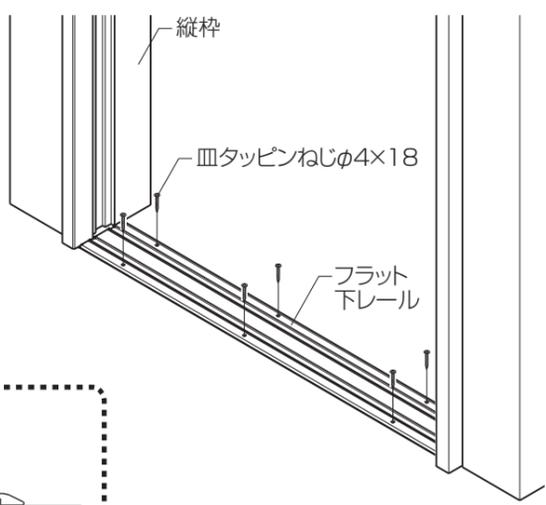
お願い
※鴨居の躯体固定ねじを締込みすぎると、本体の動きが悪くなる場合があります。本体を吊込んだときに動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。



⑨フラット下レールをねじ（皿タッピンねじφ4×18）で固定します。

お願い

※フラット下レールを固定する床（下地）は段差やすき間がないように仕上げしてからレールを固定してください。



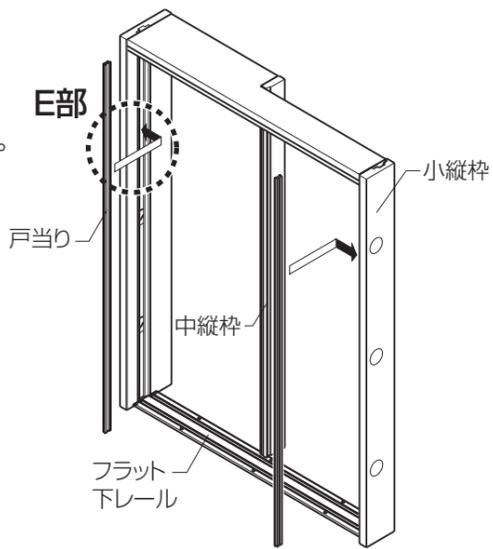
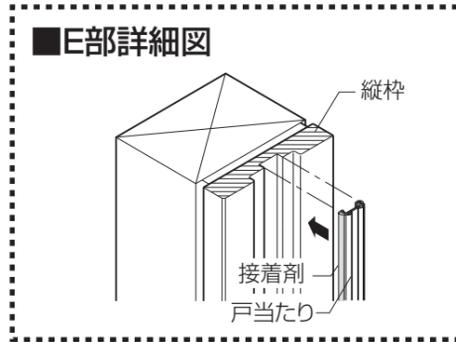
お願い

※フラット下レールを取付けるねじは、締めすぎないようにしてください。フラット下レールが変形し、本体開閉不具合の原因となります。

3 戸当りの取付け

3 戸当りの取付け

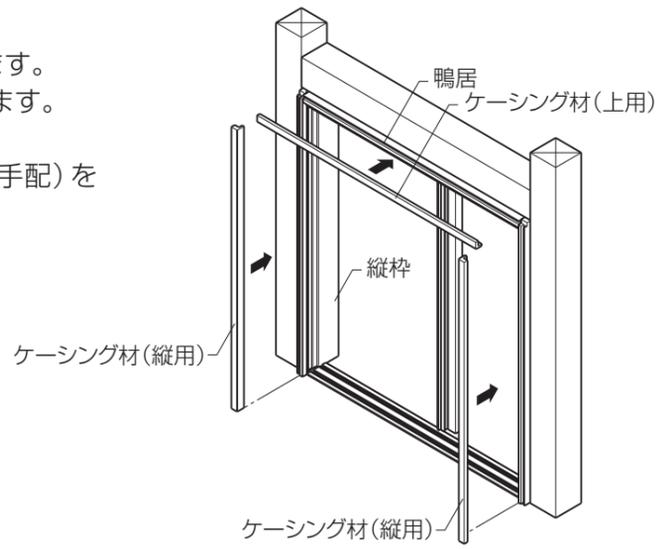
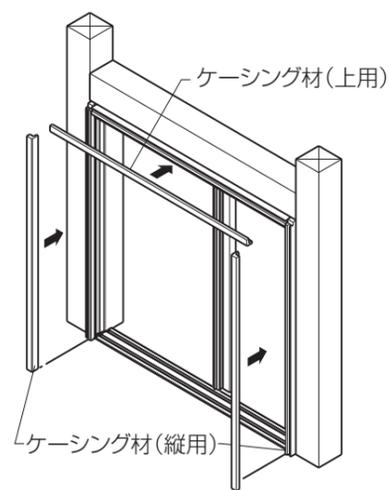
- 戸当りに接着剤（現場手配）をつけて縦枠に取付けます。
- ※戸当りは下レール取付け後に取付けてください。
- ※戸当りが長い場合は、無理に入れずに必要量を切詰めてください。
- ※戸当りの接着は必ず枠の建付け完了後に行ってください。



4 ケーシング材の取付け

4 ケーシング材の取付け

- ※壁材・床材を仕上げた後、ケーシング材を取付けます。
- ①別梱のケーシング材を現場寸法に合わせて切断します。
- ②枠のケーシング溝へケーシング材を差込みます。
- ③ケーシング溝とケーシング材裏面に接着剤（現地手配）を塗布し、ケーシングを固定します。



5 幅木の取付け

5 幅木の取付け

- ※小壁のボードとフラット下レールを見切るために幅木が同梱されています。必ずご使用ください。幅木部材の裏面にまんべんなく接着剤（現場手配）を塗布し、専用のかくし釘で固定します。
- かくし釘のピッチは、200～300mmです。

